

魚住新聞

第2号 11月
魚住新聞
音羽小学校
稲波悠真

鯨死す

三年間飼育していた鯨が死んでしまった。三才の弟は泣き止まない。涙も涙が止まらなかった。鯨が死んだ前、水槽が死んだ。水槽の水を60cmの水そうを使い、飼育を始める。二〇一四年120cmの水そうにかえる。



一週間ほど大きければ死ぬ前日は夕方に過ぎていた。白いまぶたのようなものがあつた。他の魚は生きていた。

イサは十分にやった。水がび病なのか? 酸素不足なのか? 今の私の知識では何も分からないけれど、水質悪化も原因の一つだと考え、魚にいい住み良い環境にしていまふ。



京都水族館館長 下村さんにも諸しを聞いて、花アルカリに弱く、酸性の水を好む。た、土などを入れて、下村さんやるといいますよ。

ナマズ専門の先生 小山先生。科学センターでたくさん先生が私の魚の住み良い環境を作る。プロジェクトに協力して下さいました。



ナマズの水質悪化は富栄養化。漢字からすると栄養素がいっぱい。良い事ではないのだから、洗剤など、ナマズにいい水質にする。アオコ赤潮。

水質悪化

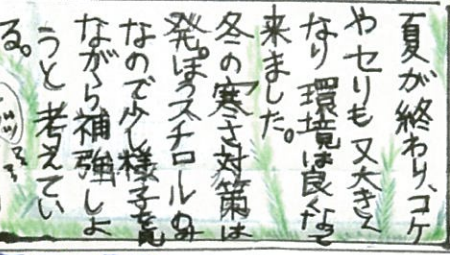
富栄養化 ↓ アオコ赤潮

魚の住み良い環境を作る



夏が終わりに、コケやセリも又大きくなり、環境は良くなりました。冬の寒さ対策は、発芽スチロールなどで少く補強しようとして考えている。

赤い人もマスクを育て時!!

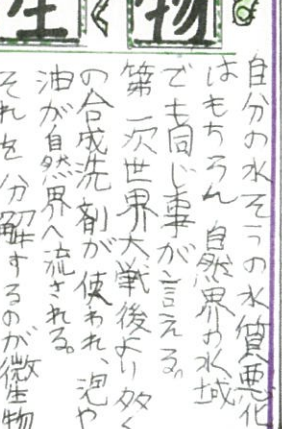


自家製ろ過装置



3村は底石・サンゴの砂利。夏休み前に考え出したろ過装置。自分の改良すべき点を考え中。まだまた私の研究は始まったばかり。

水中微生物



自分の水その水質悪化。自然の水その水質悪化。でも同じ事が言える。第二次世界大戦後、多くの合成洗剤が使われ、泡や油が自然界へ流される。それを分解するのが微生物である。

水中生物の地球村



自家発電である事!! 出来れば4つの機械を循環でアルカリに弱い鯨用に使用しない。

古代石鹸

灰と油でできる。灰は牛脂を使い、石鹸を作ったかとも石鹸とは言えない。実際に作って見ると、灰と牛脂を使い、石鹸を作ったかとも石鹸とは言えない。

無添加石鹸は安全? 発芽実験を行った。水・私の石鹸・生活排水無添加石鹸と使用実験。発芽しなかった。濃度の違いや一度の実験ではまだ結果として不十分だが、注目し、こちらも続けたい。



編集後記。鯨を返せました。この研究を始めた。魚の住み良い環境というのには、実現できるか。環境にいいか。行内に私一人の力では、小さくてもいい。実験した。